



会員寄稿

「あいさつって確かに大事だ」

人権・同和教育課長 倉田 敦

かつて、あいさつの言葉の意味が気になって調べたことがありました。きっかけは、“A Dio. (アッディーオ)”というイタリア語でした。さようならの意味で使われますが、直訳すると「神のもとで」という風になるようです。聞き覚えのあるスペイン語の“Adios. (アディオス)”も同じだと思います。そこで「おっ」と思いました。英語の“Good bye.”も同じじゃないか？そこで調べたという経緯です。そうすると近いのか？遠いのか？そのままなのか？微妙ですが「当たらずともそう遠からず」ということにさせてもらって、こういうことだとわかりました。もともとは“God be with you.”(神があなたとともにありますように)だったようです。短縮して、でちょっと変化して“Good bye.”になったようです。じゃあ、次に気にしたのは“Good morning.”はどうなのか？晴れでも嵐でも何が何でも“Good morning.”なんで？これも省略、短縮された言葉でした。省略、短縮される前の文は“I wish you a good morning.”(あなたにとっていい朝でありますように)。なるほどそういうことか、“We wish you a Merry Christmas ♪”で12月によく聞いているあれですね。と、納得しました。「あいさつって思い合いなんだ」と納得して嬉しくなりました。

そしていよいよ最後に気になったのが日本語のあいさつはどうなんだろうということ。「おはよう」。なんでこれがあいさつなのか？「こんにちは」漢字で書くと「今日は」。「今日は」どうしたんだ？そのあとは？と調べてしまいます。でもこれも思い合う気持ちが省略されているということだろうと結論付け、気持ちが落ち着きました。「おはよう」は「朝早くから元気で何よりですね」のような感じ。

「こんにちは」も「今日もご機嫌うるわしゅう、何よりですね」。「さようなら」は「さようであるならば、そろそろお暇いたします」(きっと気持ちの中では「お達者で」が含まれているはず・・・)。こんな感じだったと思い込んでいますが、多少ニュアンスが違うかもしれません。よかったら調べてみてください。でも、やっぱり日本語のあいさつも思い合いなんだと思います。

「あいさつは大事」ということは世界中の共通項だと思います。大洲高校の生徒もよくあいさつができると感じています。思い合いならみんなで思い合うのがいいですね。と言いつつ、私が十分なあいさつができているとは全く言えませんが、気持ちのよいあいさつをなるべく努めていこうと思います。